

R8 タウンミーティングにおける市民意見

テーマ 1 このまちに仕事を増やすためには？

1 企業誘致

- 最近はないが、旧小学校の空き校舎への企業誘致はとても良いと思う。企業を呼び込んでもらい、地元の近くに仕事があればいいと思う。また、介護関連の充実している何かを作って人を呼び込むと雇用も生まれていいと思う。
- 豊岡市には工業団地がまとまってあるが養父市はばらばらとある。一か所に大きいものを作ると高校生のうちから、あそこに工業団地がある、働く場所があると分かって分かりやすいのではないかな。
- 企業誘致を行うための準備として工場団地の整備が必要
- 環境推進事業こそ大事ではないでしょうか？自然・環境の良さしか取り柄がないのでそれを売りにして企業を誘致する。ウイスキー工場が好例。
- 国道 9 号線沿道計画など、市で定めた計画に基づき実行計画を着実に展開することで企業参入を推進してほしい。
- 市長自身が企業に対して積極的にトップセールスを行ってほしい。
- 都会の町工場を小規模に集約させ、選択的に 2 拠点生活をしてもらい、八鹿を中心にものづくり団地を作るのはどうか。事業承継が進んでいない事業所やサプライチェーンを呼び込む計画を進められれば、仕事と人、技術を移転できる。寮生活など「住む・食べる」環境を充実させ、休日は都会に帰るといった生活スタイルを提案したい。都市部の工場のメリットは、都会工場の環境問題の解消。工場に係る税負担の削減(都市→養父市に来ることで)。事業継承。都会の工場を閉じることで土地を収益性の高い事業に転換できる。などがある。
- 昨年 12 月の公共政策フォーラムで専修大学高橋ゼミが「廃校を利用したサテライトオフィス誘致」を提案していたがこのような取組はどうか。

2 既存産業の支援

- 外部からの企業誘致だけでなく、現在頑張っている地元の既存企業（商工会会員約 600 社）をしっかりと応援すべき。
- 既存の事業所のさらに業績アップに対し、手厚い補助制度等の仕組みを作り、1 人でも多くの雇用が生まれるようにすればいいと思う。
- 企業の負うリスクに対する補助金等の支援策。
- 現在の若者は、企業のブランディングや DX の推進、新たな商品やサービスの企画など、自分のアイデアが地域や会社に反映される仕事に魅力を感じる傾向があるが、中小企業ではこのような役割を担う人材の雇用や育成は

容易ではなく、また、若者が起業し、地域企業へ提案を行うことも高いハードルがある。そこで、養父市の地域商社である「やぶパートナーズ」が、地域企業の DX 支援や商品開発、ブランド戦略、人材育成などを伴走支援する組織へと発展することを提案する。

3 起業支援・スタートアップ

- 独自の教育によって、氷ノ山やハチ高原などの地域資源を活用した特色のある教育を行うことで『この地域をどうしよう』、『起業しよう』という考えが育っていくと思う。体験教育を充実されることが必要ではないか。
- 八鹿はもともと「商人の町」である。アメリカのように新設企業は5年間法人税免除などの特例を設け、「養父市で起業すれば大きなメリットがある」というブランディングを行い、国家戦略特区の養父市から国へ税制特例を働きかけるべき。
- 養父市出身者がUターンして起業したい人向けの助成があればいいと思う。
- 新規就農は初期投資がかかるが、離農者から譲り受けるなどやりようはある。
- 日本政策金融公庫のセミナー参加者などの人に来てもらって起業してもらうのがいいのではないか。

4 農林業・地域資源の仕事化

- 企業のために働くだけではなく、森林や農地などの地域資源を守りながら、それを仕事にして生計を立てられるような支援がほしい
- 林業の先輩を先生として、若手を育てるよう林業の親方制度があれば。
- 都会ではお金を払って農園を借りている。農業や林業への関心は高いため、就農するまでのプロセスや研修制度がわかりやすく提示できれば、もっと集客・就農しやすいのではないか。(①親方制度と家の一体支援をした上で募集する。②年間を通しての貸し農園を業とする企業)
- 高齢化で増える休耕地・荒廃農地を家庭菜園や企業農園として活用する計画を市主導で作成・斡旋すべき。自治協で空いた農地を貸し出し、農業体験や定住条件と組み合わせるなど、既成概念に捉われない活用を進めてほしい。
- ハチ高原などを活用し、単なる温泉・観光施設ではなく「自然豊かで農作業ができる大企業の保養施設」として市からアピールしてはどうか。管理者を置き、夏休み等に家族で農作業体験や作物の持ち帰りができるようにすれば関係人口や移住につながる。
- AI 時代でも消えない産業である「農業」と「投資（金融リテラシー）」を組み合わせ、農業をしながら不足する部分は投資による利益で補填する。都会に出ずに養父市で生活できるハイブリッドな暮らし方を提案したい。

5 求人・人材活用

- スキマバイトアプリ「タイミー」を見ると市内の求人は民宿など季節求人しか見当たらない。若者が「お試しで働いてみたい」「会社の雰囲気を知りたい」と思っても、いきなり正規雇用に応募するのはハードルが高い。企業側がスポットバイトでお試し採用できる仕組みがあると良い。私の農園で「都合の良い時間に自由に来てよい」という柔軟な働き方を導入したところ、応募があり、現在7名が喜んで働いてくれている。「周りに迷惑をかけるかも」と躊躇している潜在人材（若者・主婦層）は地域に眠っている。
- 朝来市で「子育てママ向けお仕事相談会」や、無料の「在宅クリエイター育成スクール（PC1台でデザインや動画編集等を行う仕事）」を開催している。在宅ワーク育成やお仕事相談などの柔軟なマッチング窓口が必要。
- ハローワークの求人票は文字ばかりで魅力が伝わらない。今の若者は給与だけでなく「どんな人が働いているか」「福利厚生」「休日の過ごし方」を見ているため、求人広告の中に会社の魅力や自慢をプラスアルファで打ち出す工夫が必要。
- 高校生と企業をどうつないでいくかが大事。八鹿高校の卒業生は都会（大学等）へ行くが、和田山高校は30%、但馬農高は60%が地元に残る。豊岡の就職説明会では介護系が多く、大企業は「大卒以上」を募集している。高校時代に養父市に良い企業があり、働く場所があることを親も子も知るべき。
- 中小企業では求人を出すほどの力がない。企業ガイドブックに求人数を記載しているが、多くが0～1人でせつかくのガイドブックが逆にデメリットになる。毎年似た誌面なので高校生や大学生が楽しめるものにしてみては。
- 介護施設職員の不足
- 外国人を定住させて「〇〇人街」をつくる。
- 冬はスキー場等の季節労働者がおり、中国人大学生がインターンビザで来たりしている。
- 昨年ミャンマーから4人が近くで働いており仲良くしていたが辞めて東京に行ってしまう、がっかりした。日本人だけでは維持できないので外国人に良いまちと思われるまちにならないといけない。
- 人は仕事を求めて都会に出ていく。学ぶところ、働くところがあれば流出も防げて人も入ってくる。

6 2拠点・仕事は外

- 2拠点生活に対する就職、移住支援
- 空き家が多いので有効活用できないか。養父市に住んで、仕事は市外へ働きに出てもいいのではないか。

- 企業誘致と並行して若者定住のための住宅をもっと作るべき。豊岡、城崎、和田山、福知山に働きに行けばいい。
- 企業も必要だけど娯楽がないので都会に行ってお金を使っている。

7 公共施設の誘致

- 民間企業の誘致が難しいのであれば、刑務所やオスプレイ、廃棄物処理場など公的なものの誘致も検討してはどうか。
- 核廃棄物の処理場などの誘致。

8 外部とのつながり

- 市民の親戚など都会で仕事をしている人はたくさんいると思うので、そういう人たちに呼びかけて、養父市の特産品や商品を販売・取引できないかルートづくりをしてはどうか。
- 全但バスに乗っている人が少ないので、バスや運送会社と協力して、大阪空港、神戸空港、東京、北海道などのブースで養父市の商品を販売・PRするようなチャンスを作ってほしい。
- 仕事を増やすためには、お客さん(需要)を増やすことが重要だと考えます。市外から観光客や関係人口、移住者を呼び込むことや、特産品・サービスをECやふるさと納税などで市外へ販売する。
- リモートワークやデジタルを活用して市外の仕事を受けることなどが、新たな需要を生み、仕事の創出につながるのではないのでしょうか。
- 公共政策フォーラムで13大学15チームの約200人の学生が熱心に養父市のことを考えてくれた彼らとコンタクトを取ることで地域おこし協力隊や移住や関係人口になってくれる人もいると思う。

【意見概要】

- ・工業団地、自然環境を売りに誘致、市長のトップセールス、サプライチェーンごと誘致、サテライトオフィス誘致
- ・市内企業の支援、業績アップの取組に補助金、やぶパートナーズの活用
- ・教育による起業意識醸成、起業メリットの創出
- ・就農・林業への支援、林業の親方制度、市民農園、企業農園、観光農園の設置補助、農業と投資の組み合わせ
- ・タイミーの上手な活用の呼びかけ、子育てママのお仕事相談、ハロワの求人が魅力なし、企業ガイドブックのデザイン変更、外国人活用
- ・2拠点生活への支援、仕事は市外、住むのは市内、若者向け住宅
- ・養父市出身者リストによる企業への営業活動

テーマ2「暮らしやすいと思えるまちとは？」

1 60代、70代の暮らしやすさ

(1) 暮らしが悪い原因

- 移動が不便だから暮らしが悪いと思う。
- 暮らしが悪くなっているのは物価高騰に対して年金などが追いついていないことだと思う。市として高齢者支援を。
- 60歳代だが雇用の不安はある。70歳代になっても仕事をしたいと思うし、自分で生活維持できることは元気のモチベーションにもなる。
- アンケートで60代・70代の満足度が低いのは、地域の伝統行事や作業（草刈りや溝さらえ等）の負担がこの世代に集中しているから。40代・50代は仕事やPTAで忙しいため、60代・70代が役を引き受ける。区長になると、上の組織や市の代表、県の組織まで引っ張られて負担が大きすぎる。
- 問題が起きた時に相談する窓口がない。「繋ぐところ」があっても「相談する場所」がないから繋いでももらえない。私自身8年間悩んでいるが、市民として安心して相談できる窓口があればいいと思う。

(2) この世代の暮らしがよくなる提案

- 小さな拠点では人が集まる場所になってほしい。店や福祉施設を入れるのではなく、図書室を拠点側に移して、体力づくりや趣味などで人が集まる部屋や、会議ができる会議室を整備して人が集まる良い施設にしてほしい。
- 市の施策が「子育て支援」に偏重しすぎている印象を受ける。死亡数が年間400人以上に対し出生数は僅かである。60代・70代をはじめ高齢者層も含め、全世代を網羅した「全体最適」のテーマで街づくりを議論すべき。
- 60代・70代のシニア層こそAIを活用すべき。長年の経験知をAIに入力しての対話や、健康相談などに活用できれば生活の楽しみが増える。スマホ教室の次のステップとして「シニア向けAI活用教室」を開催してほしい。
- ペアの図書室オンサルデで他世代の交流ができたらいなと思う。社会的処方観点からもつながりが生まれる場所づくりが必要。
- 八鹿の夏まつりや花火大会が廃止されたが、神事や伝統あるお祭りは地域が一体となる行事なので一刻も早く復活させてほしい。
- 暮らしやすいまちとは、公共交通を利用して安心して買い物や通院ができ、外出したくなる環境が整っていること、自分が望む働き方や暮らし方を実現できること。一人ひとりが自分らしい生活を送れる環境づくりが必要。

【原因】

- ・移動が不便、60、70代向け施策の不足、物価高騰と収入のバランス、仕事がしたい、地域の日役や区長などの役が負担、相談できる窓口がない

【意見概要】

・ A I 教室、人が集まる施設、他世代との交流の場、夏祭りの復活

2 どうすれば公共交通が利用しやすくなるか

(1) 路線バス

- 自動運転バスが運行し、Y B ファブから市役所、トライアルを巡回していてありがたい。この区間を自動運転でなくても運行してほしい。
- 大屋町和田地区はバスの本数が非常に少ない。買い物も「ミニフレッシュ」一択状態であり、日常生活の不便さを感じる。
- 全但バスは、日中は本当に乗客を見かけない。観光客の利用も少ない。
- 路線バス等で人と荷物を一緒に運ぶ「客貨混載」などができないか。

(2) J R

- JR 八鹿駅のエレベーター設置を切望する。階段が非常にきつく、車椅子利用者、高齢者、ベビーカー利用者が利用しづらい。
- 八鹿駅から特急等を利用する際、駅周辺に日払い駐車場（ワンコイン 500 円 / 日など）がなく困っている（篠山等にはある）。修学旅行時なども保護者や教員の駐車場所に苦慮しており、駐車場を整備・貸出できないか。

(3) タクシー、やぶくる等

- 外出支援制度（上限 6 万円のタクシー半額補助）は市民に大変喜ばれている。しかし、八鹿病院に行く際、八鹿の人は何度も使えるが、遠い人だと高額となり、すぐに使い切ってしまう。地域格差を緩和する必要がある。
- やぶくるの利用体験会をしてみてもいい。ライドシェア、巡回バス等の現状の取組を維持すればよい。
- やぶくるは予約制のため、高齢者にはハードルが高い場合がある。
- 朝来市の乗合タクシー「あさGO」は、かなり便利だと聞いている。養父市ではできないのか。
- 昨年 12 月に開催された「公共政策フォーラム」（13 大学 15 チーム参加）での素晴らしい提言（特区を生かした自動運転、デマンド交通、YB ファブ活用等）があったが、これらは実現できないか。
- 70 歳以上や障害がある方にタクシーの補助や全但バスも 150 円で乗れるようにしているというが、使い方など情報を分かりやすく周知してほしい。
- 先日、警察前で買い物終わりにバス停を探しているおばあちゃん（関宮地域）がいた。自分が降りたバス停も分からないようだった。これまで公共交通を利用したことがない人もいる。路線バスだけでなくやぶくるも使えるはずな

のにお年寄りにも移動の仕方が分かるような情報発信が必要。

- 介護タクシーは要介護認定者や身体障害者に限定されているが、免許返納して「買い物難民」になっている高齢者がとても多い。困っている人なら誰でも乗せられるよう垣根を取り払えないか。
- 自分の区では、民生委員などをまとめた独自の福祉委員（まちの相談員）が4人いて、高齢者が買い物に行きたいときなどに付き添ったりする活動をしている。まちを自分らで守っていくシステムがいいと思う。

(4) その他意見

- 高齢者の免許返納後の移動手段確保が必要。
- 免許証の早期返納に反対。前に高齢者の車両がいても圧力をかけないように「養父市に來たら我慢してもらおう」といった看板を上げるなど、元気で農業をやっている人を応援する仕組みを作してほしい。
- 解決策を考える前に課題の把握が必要。まずは利用者の意見を聞くべき。
- 市の車両を使っていない時間帯に公用車タクシーとして運用整備してはどうか。（ドライバーは雇用）
- バス停を探していたおばあちゃんの話に関連して、高齢者が手を挙げたら路線バスやタクシーが停まる仕組みを作ってはどうか。車の後部に「急に止まる場合があります」という看板をつけ、お年寄りを大事にするまちにしてほしい。

(5) 通学に関して

- 小・中・高校生の通学において、親が車で送迎するケースが非常に多い。駅や学校周辺が送迎車で大混雑して危険な状態になっている。
- バスとJRの乗り継ぎ接続が悪く待ち時間が長い。また、八鹿駅までの片道定期（学割）が3か月で7万円以上と非常に高額だったため、「自分で送った方が安い・早い」となり送迎していた。
- 実際に八鹿駅から福知山、和田山、豊岡方面の高校に通う生徒の多くは、バスではなく親の車で駅まで送迎している。雨や雪の日だけでなく日常的に送迎しており、帰りも駅前で多くの親が待っている。
- 学校選択の時点からバス路線がないために志望校に通えない。あるいはバスの時刻では学校の始業時間に間に合わないため、結果的に親が送迎せざるを得ない。

【課題】

- ・バスの利用が少ない、八鹿駅が使いにくい、外出支援制度の周知が不足、免許返納後の移動手段、バスを使わずに親が送迎している

【意見概要】

- ・自動運転バスの区間のバス運行、八鹿駅のエレベーターと駐車場、タクシー助成の地域格差の緩和、やぶくるの利用体験会、外出支援制度の周知、介護タクシーの汎用性向上（規制緩和か）、遅い車にイライラしない意識醸成

3 雨の日や暑い日の遊び場

(1) 大きな公園等

- 1歳10か月の子どもがいる。「遊び場・公園の充実」は非常に重要。ないと母子が1対1で家にこもることになってしまう。滋賀県の滋賀モックでは市の施設を改装し、市内産の木材や端材を使った屋内遊び場や木製玩具を導入して成功している事例がある。
- 市内に子どもの遊具が非常に少ない。夏場は屋外遊具が熱くなり火傷するため遊べず、雨の日や猛暑でも遊べる「屋根付き・全天候型の遊具施設」がほしい。
- YB ファブ周辺のベンチで子どもたちが集まってゲームばかりしている現状がある。小さくても身体を動かして遊べる環境や遊具を提供してほしい。
- 豊岡市のアイティ7階の豊岡の「わっく」や亀岡市の全天候型施設に養父市から多くの親子が出かけている現状がある。
- 小学生は、YB ファブの図書館など涼しくて静かなところで遊びたいと言うが、勉強している高校生や中学生が怖いので、外の暑いベンチで遊ぶしかない状況がある。子の年齢によっても遊びたい場所が違うので、ゾーニングを考えてほしい。
- 関宮ふれあいパークは素晴らしい。休日には多くの方が集まってきている。少年サッカーも盛んに行われている。お弁当を広げている家族も多い。関宮ふれあいパークは大ヒットです。私も孫とよく遊んでいます。
- 養父市地域活動支援センター（ペア）の図書コーナーやカフェなどの既存施設・資源を生かし、多世代が交流でき雨の日でも親子がくつろげる居場所として活用したい。
- 家の近くに福祉法人が定期的に草刈りしている広い土地がある。有料でもいいので、公園や遊具（イオンのボールプールのような年齢別で分かれた安全な遊び場）を作してほしい。安全のためならお金は払える。
- 昔は外で遊んでいた。昔はどうしていたか研究してはどうか。また、YB フ

ファブなどの緊急用の大きな広場は、避難場所としての整備を考えてほしい。
ペットの同伴避難場所も必要になる。

- 遊具は絶対に必要。屋内の遊び場も充実するべし。
- 先日、村岡の植物園に行った。木が生えているだけでも人が来ている。遊び場だけでなく、癒しの場として植物園のようなものもいいと思う。
- 高原森林植物園がいいと思う。
- 関宮のコミスポについて、体育館の床を取り払ってグラウンドゴルフなどに活用すると聞いている。子どもからお年寄りまで集まれる社会教育の場所として活用してほしい。

(2) 身近な遊び場

- 大型施設には親が車で連れて行かなければならない。子どもたちが自力（徒歩や自転車）で行ける身近な遊び場や息抜きできる場所が必要。
- 昔は夏になると川へ自転車で行っていたが、今は危険だと言われて行けない。自力で行ける自治協を活用・開放して子どもたちの場にできないか。
- 遊び場は大きな1か所よりも小さくても身近な場所が複数ある方がいい。
- 夏休みに自治協の施設を週1回開放したことがある。涼みに来てゲームをする子どもが多かったが、居場所として開放した意義はあった。
- YBファブのような場所を遊び場として大屋・関宮にも作ったらどうか。
- 気温が上がって外に遊びに出すのが不安。昔は地域の人が見守ってくれていたが今はその環境がない。義務にならない程度に、外で遊んでいても見守れるような雰囲気作りができればいいと思う。
- 子どもの遊び場は、休日の学校のグラウンドを開放すればよい。
- 市役所横の芝生広場について、道路側フェンス下の隙間からゴムボールが道路へ転がり出て危ないため、ネット設置等の対策を行ってほしい。
- 市役所横の芝生広場は利用されているのか。

【課題】

- ・屋内の遊び場がない。身近な遊び場がない。

【意見概要】

- ・屋内の遊び場がほしい。(未就学)
- ・子どもたちが自力で行ける身近な遊び場がほしい。(就学)

テーマ3 「伝わる情報発信とは？」

1 どうすれば市に意見がしやすいくなるか？

(1) タウンミーティング

- 市民の声が届く仕組みとして、タウンミーティングがあるが、時間が全然足りないと感じた。もっと開催を増やしてみてもどうか。
- タウンミーティングのような場に出て意見を言うのはハードルが高い。声の大きい人の意見ばかりが通りがちになる。
- タウンミーティングはグループごとに机を囲み、職員も混ざってワークショップや「アイデアコンテスト」のような緩い方が気軽に参加できる。
- タウンミーティングを年代別にしてはどうか。世代によって聞きたいことは違うと思う。
- タウンミーティングの在り方を検討してください。
- タウンミーティングのように直接話すのもいいし、意見箱があるとよい。

【当日アンケート結果】

◆タウンミーティングの開催方法について

今年度方式	WS	自治協単位	その他	無回答
23 人	7 人	11 人	4 人	4 人

6 割以上の方が今年度方式。次いで自治協単位が 2 割となっている。

◆R8 のタウンミーティング満足度では 8 割以上の方が満足していると回答。

(2) 市役所

- 以前、YB ファブ建設の会議（附属機関）に出ていたが、コンサルタントが決めたことを承認するだけの場になっており、意見を言っても変わらないと感じた。もっと住民から意見を吸い上げるべき。
- 個人が役所で意見を言うのは難しい。地域に根ざした「議員」が市民の声を聞いてほしい。また、市職員に伝えてもその人次第で終わってしまうことがあるため、ポロっ出た意見を拾ってくれる体制がありがたい。
- 市役所は自治会や協議会などの「団体」からの要望には回答するが、「個人」の声が届きにくく対応に偏りが生じる。双方向で個人の声が届く仕組みを作ってほしい。
- 市職員が集落の行事や集まりに出て、雑談の中で市民の本音や意見を収集する方が良いのではないか。
- 市民の声が行政に届く方法の 1 つは、各区の区長だと思う。各区長が地域局に市民の声を届け、地域局に人を増やし、予算と権限を持たせて、地域局を中心としたまちづくりを進めていくことが大事だと思う。

(3) その他

- 市民の声は、自治協や各種団体、民生委員、区長、市議会議員などを通じて行政へ届けられることが多いが、地域差や個人差により、十分でないことも

あるように感じる。タウンミーティングなど対話の機会を継続的な開催が必要と考える。

- 豊岡市の「みんなエール」のように、高校生や若い世代が集まってまちづくりやUターンについて語り合うイベント・場を養父市でも開催してほしい。
- 都市部に比べたら圧倒的に市民の声は市に届いている。地域コミュニティが充実しているからである。都市部の方が市民の声が届きにくい。

【意見概要】

- ・TMの時間が足りない、ワークショップ形式に、年代別にしては、意見箱
- ・附属機関の在り方、職員が地区の行事などで市民の声を拾う仕組み、個人の声が届く仕組み、地域局の強化を

2 分かりやすい、うれしいと思う行政情報とは？

(1) 行政情報の発信

- 「やっふるポイント」は、山田風太郎記念館のような来館者の少ない有料施設に行けばポイントがもらえるようにし、嬉しい情報発信として周知すればいいと思う。
- 「住みたい街ランキング上位」と公表されているが、実際に何人が定住・移住したのか具体的に見えない。これらの情報発信が不足している。
- 夕張市のように、人口予測、借金時計（完済に向けたカウントダウン）、市長の部屋の全公開など、情報を徹底的にオープンにし、わかりやすく「見える化・簡素化」して発信してほしい。
- アンケート結果や本日の話のまとめなどは、紙媒体で全市民に見てもらうのがいいのではないか。
- やっふるポイントがもらえる事業や活動などをケーブルテレビで分かりやすい説明をしてほしい。

(2) 発信方法

- 地域局や各地区の会館にサイネージ（モニター）を置き、待っている間や集まった時に情報をテレビ感覚で見られるようにしてはどうか。高齢者も理解しやすいと思う。
- 人によって情報の取り方は違う。自分は紙媒体が一番見やすいので発信方法を多様化してほしい。最近、広報紙のやり方を急激に変えすぎて読みにくいと感じる。以前のように施政方針も広報紙に掲載してほしい。また、市役所の組織と仕事（職務内容と管理監督職員の名前を掲載）の内容が変わり、会計年度任用職員の異動も知りたい。
- 広報紙は良くなったと思う。項目ごとに色分けされて見やすくなった。ただ、

電話ではなく「問い合わせ」の二次元コード（QR コード）などのマークをつける工夫をしてはどうか。イベントの写真が入っていたのも良かった。ケーブルテレビを見ていない人も多いので、広報紙は大切だと思う。

- 詳しくはホームページを参照するように言われるがホームページを見れない人もいる。各庁舎に来庁者が見られるタブレットを設置してはどうか。
- 紙ベースとデジタルの併用。ただし、今の 50～60 代の多くがデジタルを使っているとすれば 10～20 年先は、ほぼデジタル化が進む。
- 市公式 LINE 登録、Instagram をフォローするメリットとして、市内利用できる地域クーポン、タクシー割引などを付加してはどうか。
- 市民の情報ニーズを調査・把握し、行政が伝えるべき情報と市民が求める情報を統合した上で発信する仕組みをつくることが、双方向で伝わる情報発信につながると考える。
- ネット上などで「夏期支援金が 15 万～20 万円出る」といったデマ・偽情報が流れていて困惑することがある。行政の役割は「何が本当の情報か」を公式に確認・検証できる体制をつくること。広報紙や配布物は多すぎて見られていないことが多い。警察の防犯ネットのように、緊急情報（熊の出没や不審者、盗難等）は地域や個別に迅速に伝わる工夫が必要。

(3) 行政情報以外の発信

- 市内の事業者の情報が知りたい。市内の事業者（600～700 社）がどんな商品を作ってどんな活動をしているのか、ケーブルテレビを使って、ローテーションで PR 発信してはどうか。
- 八鹿の象徴である酒蔵や連続する町並みの景観保全について、所有者から市へ「譲渡したい」と打診したと聞くが、その後の検討経過や結論が市民に見えない。

(4) その他

- 小野市の広報誌を取り寄せたが、しっかりした内容で賞をとっていた。養父市も内容で賞をとれるものを目指してほしい。
- 和田山の図書館に行ったら、養父市や他市の広報誌がきれいに揃えられていた。養父市の図書館は近隣市町の広報誌が集めにくいとやめてしまったと聞いた。図書館として自治体の広報に協力してがんばってほしい。
- 災害時に携帯電話通信が混雑して使えなくなる問題に対し、平時だけでなく災害時の通信対策や代替手段を検討してほしい。

【意見概要】

- ・やっふるポイントの活用拡大、周知等、行政情報の周知不足

- ・大屋・関宮地域局へのデジタルサイネージの設置、各庁舎で市の HP が見られるように
- ・市内事業者の活動をケーブルテレビで流してほしい

3 どのようなまちづくり活動であれば参加したいか？

- 消防団も参加してみたいと思える地域活動にしてください。
- 参加したいまちづくり活動について、「この人がやっているからやりたい」「この人と一緒にやりたい」と思える「人」で集まるまちづくり。
- 押し付けない、自由、主体性が生きる活動を。
- 小さな拠点と絡めて、市民農園の併設、空き家を活用したオープンガーデンや縁日のようなイベントをして、地域と絡んだまちづくり活動をしたらどうか。キーワードは「市民が楽しく生きる」こと。親が自分の地域を楽しんでいなければ子どもは帰ってこない。行政のせいにせず、市民一人ひとりが知恵を出して楽しむ行動をすることが大事だと思う。

【意見概要】

- ・参加したい消防団へ、人で集まる活動、市民が楽しむ活動を